

「第九」アジア初演100周年の秋の祭典 市内で展開！

◆2018 鳴門市友好コスモス祭り

2018 鳴門市友好コスモス祭りが10月7日（日）から11月4日（日）にかけて開催されました。

今年のコスモス栽培は猛暑の影響で大変な苦勞をされたようですが、精魂込めて育てられたコスモスは、秋の本番を迎える頃には元気な姿を見せ、「第九」アジア初演100周年の秋をしっかりと彩ってくれました。



ドイツ村公園俘虜収容所跡のコスモス



「第九の森」接待所

◆第17回鳴門のまつり



ゆるキャラと踊る子どもたち

平成30年10月21日（日）、鳴門ウチノ海総合公園で、第17回鳴門のまつりが開催されました。

今年は、好天に恵まれ、同時開催された子どものまちフェスティバルや前日から引き続いて行われた四国の肉グルメの相乗効果もあり、終日、大勢の観客で賑わいました。「第九」アジア初演100周年を記念して行われた餅投げ大会も大いに盛り上がり、鳴門の伝統芸能を楽しんでもらえる秋の祭典になりました。



フィナーレの餅投げ大会

We Love[♥]なると

まちづくり活動応援補助金 活動団体報告

「ふるさとを想う心と、まちの力」



ユネスコ『世界の記憶』遺産登録推進市民協議会 事務局 田淵 豊



舞鶴引揚記念館山下館長による講演

「ふるさとを想う心と、まちの力」という表題は、先日ドイツ館で開催された京都府舞鶴市「舞鶴引揚記念館」山下美晴館長の講演～ユネスコ「世界の記憶遺産」とまちの力～の中で、キーワードとして用いられた言葉です（舞鶴引揚記念館に収蔵するシベリア抑留と引き揚げ関係資料『舞鶴への生還 1945～1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録』がユネスコの世界記憶遺産に 2015 年 10 月登録される。現在までに日本国内で国際登録されているのは 7 件、同関係資料は 5 番目に登録）。

この講演会は、このたび、収容所跡として唯一、国の指定史跡として認定された「板東俘虜収容所跡」が現存する大麻町を中心に、市民の立場からユネスコ「世界の記憶」遺産登録を目指し、市民の関心を高めていこうと、7 月に設立された市民協議会によって実施されたものです。それ以降、総会から 3 回のイベントに取り組み、延べ 1 万枚のチラシを配布し、約 300 名の皆様が参加されています。来春の 2 月 24 日には、2014 年度第 60 回青少年読書感想文コンクール課題図書・高校の部に選定された、県人作家、医師でもある香川^{よし子}宜子先生をお招きし、『アヴェ・マリアのヴァイオリンと世界の記憶遺産（仮題）』と題して講演会を計画しています。

今、円い地球の片隅にある私達のふるさとが、世界中の人々から注目されようとしています。世界を冠した、ユネスコ三大遺産を目指す運動が始まっていることはご承知の通りです。「鳴門の渦」から始まり、「遍路文化」、そして 100 年前「板東俘虜収容所」で残された記録の数々が『世界の記憶』遺産にと、大きな渦の柱となって立ち上がっています。三柱ともユネスコの世界遺産に相応しいもので、登録の如何に関わらず、価値あるものには違いありません。中でも後発の「世界の記憶」遺産は、登録も間近に迫っているのではないのでしょうか。

ユネスコは登録すると「板東俘虜収容所」の記録を世界の遺憶とし、人類共通の知的財産として永久に保存し、同時に世界にその情報を開示します。私達は、登録をただ待つのではなく出来るだけ早く、世界を視野に入れた感度の高い情報発信するべきだと考えています。「板東俘虜収容所」であった奇跡のような物語は、現況のような世界情勢の中にあっても、ここに訪れた人々は、ボーダーレスな友愛精神の実現が可能であったことを知ることによって、平和の実現と生きていく確信を得ることができるのではないのでしょうか。この地はまさにユネスコの精神に合致した聖地であるのです。

この千載一遇のチャンスを活かすかどうかの鍵は、やはり市民の関心とまちの力だと思っております。私達は「世界の記憶」に取り組む中で、渦・遍路・記憶を三位一体として、それとともに、この地がふるさとである 20 世紀の世界的偉人の一人賀川豊彦も加えて情報発信していくべきだと考えています。賀川は人類史上最悪の二度の大戦を通して、世界平和のために世界中を駆け巡り、ノーベル平和賞の候補に 4 回（ガンジーも 4 回、二人とも無冠）も挙げられた郷土が誇る先覚者です。欧米での評価は本国よりはるかに高い人物です。

さらにもう一件、同時発信するものとしては、来春 2 月に講演される香川先生が二冊目に上梓された

「日本からあわストーリーが始まります」にも書かれたように、阿波古代史の浪漫あふれた物語があります。我がまちには最近の「板東俘虜収容所跡」も加わり鳴門板野古墳群として 5ヶ所国指定史跡が存在します（県内 11ヶ所）。これらの古墳群と関連する遺跡から考察されることは、阿波国から日本の国づくりが始まったという壮大なドラマです。昨年 3 月には鳴門市教育委員会主催の「鳴門板野古墳群」国史跡指定記念シンポジウムが開催され、文化庁の主任文化財調査官の^{ねぎた}禰直田佳男氏が～地域住民に愛される史跡を目指して～と今後の期待を込めて講演されております。この分野においても既にお膳立てはできているようです。あとはどのように発信していくかです。このように考察してくると、先祖から預かったどの遺産も、物語は世界に通用し、人々への関心と観光への想い膨らませるものに違いありません。

第一次世界大戦が終わって 100 周年、我がまちにおいては「板東俘虜収容所」を軸に、歴史が大きく動き出しています。それに対して市民が無関心であっては、たとえ「記憶遺産」が登録されたとしても絵に描いた餅になることでしょう。「舞鶴引揚記念館」の取り組みに示されたように、『市民のふるさとへの想いとまちの力』を信じ、俘虜たちの残してくれた記録が『世界の記憶』として登録された日には老若男女皆で「歡喜の歌」を歌いたいものですね。

「SPARKS@NARUTO～haeru 大道銀天街～」事業

鳴門縁の会 四宮 弘貴

私たち鳴門縁の会は、鳴門市に過去現在携わってきた同志が集まり結成した団体です。

すべてが縁で繋がっていると思い、「鳴門縁（えにし）の会」と名付けました。

鳴門で生まれ育ち恩返しの意味を込めて、そして次世代の子どもたちが鳴門で生まれてきて良かったと思えるような活動をしたいと思い、設立しました。

今までの活動では、毎年正月明けの 1 月中ごろに岡崎海岸で行われている「どんと焼き」を引き継がせていただき、先代からは 33 回目、我々になってから 3 回開催させていただきました。鳴門の伝統をこれ以上絶やさないと先代が 30 年間行ってきたので、我々も 30 年間は続けられるようにしていきたいと思っています。

平成 30 年 4 月に、We Love なるまちづくり活動応援補助事業の採択を受け、「SPARKS@NARUTO～haeru 大道銀天街～」事業を 7 月 21 日（土）に、鳴門大道銀天街で行われた納涼市の中で実施させていただきました。

まずはダンスプロジェクトとして、納涼市のオープンセレモニーで地元のダンス教室「DANKE-STUDIO」の皆さんと鳴門高校ダンス部の皆さん総勢約 100 名でダンスを行いました。

次にアンブレラスカイプロジェクトです。大道銀天街の空を色鮮やかな傘のアーチで飾りました。太陽が出ている時は傘の影が地面に写り、夕暮れ時になると幻想的な風景になりました。

今後のビジョンとして、ダンスプロジェクトやアンブレラスカイプロジェクトを今後も続けていきたいですし、子どもたちが喜ぶイベントを考えていきたいと思っています。



大道銀天街納涼市のオープンセレモニーで披露されたダンスプロジェクト



大道銀天街の街空間をカラフルな傘で彩るアンブレラスカイプロジェクト

We Love なるとデー

実施報告

～鳴門のためにできることをする日～

10月21日(日)から11月4日(日)にかけて、WeLove なるとデーが実施されました。

この取り組みは、一人ひとりが鳴門のまちのためにできることを考え、できる範囲で活動することで、地域を見直すきっかけとし、ふるさとを愛する気持ちや社会貢献意識を高めることを目的としています。

今年も市民の皆さんが鳴門のまちのことを考え、ふるさとに貢献したいとの思いで、積極的に活動に取り組んでくださいました。その活動の様子をご紹介します！



鳴門ふれあい健康館周辺の清掃活動



鳴門ではじめてのおつかい～大道銀天街～



コスモス祭りの一環として接待所を開設

第17回 鳴門市市民活動交流研修会

とき 平成31年1月26日(土) 午前10時～午後4時
ところ 鳴門市うずしお会館 2階 第1、第2、第3会議室
内容 活動事例発表、NPO ボランティアマッチングフェア他
同時開催イベント 第84回鳴門市消費者の市・消費生活展
第25回安全なまちを考える市民の集い